

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時、理念を唱和し、日頃の中で理念の実践に皆で取り組んでいる。	開設時に作成した事業所理念を玄関、事務室に掲示しているほか、毎朝の申し送り時に理念を唱和し、理念の実践ができるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を招いてのイベントや、地域行事への参加、(町内会) 畑の手伝い・仕方・整備等 施設新聞を4町内に回覧版で回していただきご覧いただいている	地域の方にも事業所広報を回覧したり、地域の防災訓練や清掃活動にも参加しています。また、地域の方からお花を頂いたり、ボランティアの方にも来て頂く等、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	保育園や小学校との交流も今後持てるように検討されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会を開いたりイベントへの参加いただき、ご利用者様とのかかわりや会話・理解などの機会作りを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に行い、意見・質問等を参考に向上に活かして。ご利用者様・職員の状況報告(良いことも問題点も)し、改善点等話し合い次回につなげサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長や民生委員、老人会会長や地域包括支援センター職員等から出席してもらっています。参加者へ事業所の活動報告や事故報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。 現状報告や相談・手続きの仕方・書類・等協力いただいている。 施設新聞を差し上げている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。また、事業所広報も市に定期的に送付する等、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で勉強会を行う。 施錠をせず、見守りの徹底 1名ご家族了解を得、ベットの柵使用	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとし、言葉による抑制についても職員会議で周知徹底するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	やむを得ず身体拘束を行う場合についても、同意書を頂き、経過報告も行うように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会での虐待について討議した。(開所時) 各種研修に参加・パンフレット・資料を参考 スタッフルームにいつでも見れる様資料置く	事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ご利用者様の中に成年後見制度にて入居されている方1名おられますが、さらに今後勉強会で取り上げていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族への説明は納得いただける様努めております。 ご本人様には、出来るだけ不安を感じさせない様配慮致してます。(職員の優しい声掛けなど)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、ご利用者様、ご家族様の意見・要望をお聞き出来る体制を作っている。また、請求書送付時に、日頃の様子と、ご要望は気軽にご連絡いただきたい旨を記載し一緒に送付している。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、事業所のお祭りや忘年会にもご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員から意見や提案を積極的に聞き、取り入れている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、職員アンケートも随時実施し、職員の意見を吸い上げられるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の一生懸命、真心のこもった介護をしている姿を見、感動いたし、全職員に感謝伝え特別手当を7月に支給。賞与・昇給を話、向上心と張り合いの持てる様にした。又、昼休みはゆったり横になって休めるよう畳部屋の使用を認めた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常各職員1人ひとりの実績やケアの力量を観察し事務所サイドで相談しながら、職員全体把握や判断材料にしている。また、研修に出る機会・施設内勉強会を設け、代表者は日々学ぶ姿勢と退社前に一日を振り返り反省点は改善する事の教育と分からない事は他職員に聞く様指導した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との互いの研修を図らにお互い行き来出来る様お願いした。交流により、同業者の就労シフトの組み方やケアの仕方を学びサービスの向上に取り入れるか検討。 代表は、同業者代表と互いに連携をとり、福祉の情報・状況・施設の様子や困りごと、解決方法を話し合っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これから生活を共にし、1つの家族であることを伝えている。どんな小さな事でも相談して欲しい、相談に乗ることを伝えて和気藹々と楽しく過ごし安心されている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大事なご家族の入所に対し、安心して預けて頂ける様施設の取り組み方、説明し納得いただいている。又、困りごと・要望も都度お聞きし家族あつてのご利用者であることをもっとうとしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時、家人の一番困っている事、本人様の望む生活に近づける様援助内容を検討している。 (1名特養申込み有)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ぬくもりの里は1つの家族、1つ屋根の下の家族と、折に触れてご利用者様・職員に話している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな細かい事でも相談し、本人やご家族様との掛け渡的存在であり、ご本人にとって良い様になるよう努めている。	3ヶ月に1度は事業所広報をご家族にお送りしているほか、広報を送らない月には担当職員よりご利用者に応じて近況報告もお送りしています。受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂ける様、ご家族様を通じて友人・知人の方へのお願いしている。また、お出でいただいた方への声掛けで次回へつなぐ様努めている。	知人の方に面会に来て頂いたり、ご家族の協力も得て自宅への宿泊やお墓参りへ出かけた時、職員と一緒にスーパーへ買い物に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人その人を見、気の合う人との席順や、孤立しない様みんなでかかわり合える様配慮		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1月開所より現在4名様退所、内3名亡くなられ1名家庭へ戻られた(家庭が落ち着いた為)。(退所後は難しい面あり)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で希望や意向の把握に努めている。言葉だけでなく、表情や行動などから意向をくみ取るよう努めている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	ご家族に意向確認をした際は、支援経過に状況を記録されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より情報を得ている。日々の関わりの中で小さな情報を積み重ねることによりこれまでの生活について把握に努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。6ヶ月に1度はアセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	ご利用者の生活歴の把握をより把握できるようにフェイスシートを見直し、職員間で情報の共有をより進められることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りでご利用者様の様子について確認し1人ひとりの生活リズムを把握するために、気づいた点があれば記録に残し情報を共有できる様職員全員で取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には、日々の関わりの中で意見・要望を聞く。ご家族様からも面会時・電話にて意向確認致し、職員のユニット会議で意見交換を行い、介護計画に反映している。	3ヶ月に1度のモニタリング、6ヶ月に1度のサービス担当者会議の前にはご家族の意向を確認し、介護計画に反映させています。	モニタリングの項目について、ケアプランの目標に記載されていないながら評価していない項目もありましたので、今後見直されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に本人の言葉・様子を記載し、職員がいつでも確認できる様、情報の共有化と介護計画検討図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様の希望に応じ、他病院受診付添を行っている。また、希望の理髪店への同行支援など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市事業による紙おむつ支給券 訪問美容にて整髪・髪染めの支援		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の希望や今までのかかりつけ医と相談し移せる場合、施設医へ移行していただいている。又、必要に応じて職員で受診対応している。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となり、往診にも来て頂いています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表を作成するなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週5日、半日勤務の看護師による介護職との連携により対応、適切な判断をいただき医師との連絡図っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ必要な情報提供を行っている。 入院中は時々病院へ行き病院関係者との情報交換を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの時は、本人・ご家族の意向を聞き、施設医と相談し随時確認しながら、医療機関との連携図り対応している。	契約段階で管理者は看取りに関するホームの方針を伝え、同意書を頂いています。実際にホームで看取りの支援をしたご利用者もあり、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームのできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度消防署より来ていただいたの訓練や対応と、看護師による講習にて、いざと云う時の実践力身に付く様心がけている。	消防署職員に来て頂き、心肺蘇生、AEDの使用研修、異物除去の研修を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練及び、地域の中での合同訓練に参加し、地域のみなさまより協力いただける様お願い致し、協力体制作り図る。	事業所にて、日中の火災を想定した避難訓練を行なっています。町内の防災訓練にも参加しているほか、災害時を想定した非常用の食品も確保されていました。	夜間を想定した避難訓練の実施や緊急連絡網の見直しも検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉掛けや対応と尊重する気持ちを常に持った対応に心がけている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についても契約時に確認が取られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定出来る場面を作ったり選んでいただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく、その人のペースで、本人の希望を聞きながら毎日過ごしていただける様支援している。生きがいを見つけていただき張りの有る生活をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・ご家族様よりの希望にて、散髪・毛染も行って。また入浴後の洋服選びも本人より選んでいただいている。選べない方には、こちらで選んだものが良いか確認いただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付けをお手伝いいただき食べる前の楽しみと、後片付けは出来る人と職員が一緒に行き、出来る喜びを感じていただいている。	調理や盛り付け、後片付けもご利用者と一緒にしているほか、事業所の畑でもトマトやナスなどの野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご利用者と一緒に笹団子を作ったり、お好み焼きを作ったり、外食に出かける等の支援も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を記録・確認している。看護師や医師とも相談し、水分摂取量や、栄養バランス・体重増加等1人ひとりに応じた対応を職員連携にて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る人には声掛けを行い、出来ない人には、その人に応じた介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用 尿意の訴えの無い方も職員の声掛け誘導を行う事によりトイレに行って排泄が出来る様支援している。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、AM・PMのテレビ体操 10時・3時の水分摂取 下剤の使用者＝医師・看護師に相談(使用量・頻度・指示仰ぐ)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回のペースで入浴していただいている。その日の体調・気分により別の日にしたり、希望の方はプラスで入浴していただいている。	お風呂は一般浴槽と特殊浴槽があり、週2回、午前での入浴支援が基本ですが、ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。入浴を嫌がる方にも、声かけの方法やタイミングを見計らい、入浴を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。	調査時点で入浴チェック表に記載漏れがある箇所がありました。記録に漏れが無いように周知徹底されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の午睡される人・夜間寝つけられない人への安心して休んでいただける様声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が常に見れる様、個別ファイルに綴り又、記録カウンターでもファイルで確認できる。職員が服薬時の名前確認と別の職員が服薬後の袋の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に食事作り・畑仕事・花の水やり等出来る喜びや、塗り絵・編み物・パッチワークなど以前の生活歴を活かした張りごとと楽しく過ごせる取り組みの支援をしている。また、外出や行事への参加を聞きながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ1人ひとりの希望に沿うよう心がけている。1名毎日戸外へ散歩(同行) お天気の良い日全員で玄関前での外気浴 買い物への同行・ドライブ・各種見学など支援	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせたお花見や紫陽花見学、菊祭りなどのイベントとしての外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望とご家族の了解により少額持っておられる方もいる。(本人安心感)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様希望・ご家族の希望により施設の電話を使用いただいている。また、希望により、ハガキ・手紙の手配や送付を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節を感じていただける様な掲示物製作や出かけた時の写真を貼り楽しんでいただいている。 面会に来られた家族に写真を見ていただき生活の様子を知っていただいている。	共有スペースは広々として開放感があります。共有スペースにある畳の小上がりはご利用者が将棋をしたり、洗濯ものを畳んだりして過ごせる場所です。飾られている装飾品も季節に合わせてあるほか、活動の様子をまとめた写真も掲示されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりにて気の合った人との洗濯たみや、チョッと横になったり等くつろげる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より本人の好んでいた品物・馴染みの物を持参いただき家庭のような空間づくりを図る。思い出のアルバムや写真たて飾る。	居室には仏壇や賞状、ねじ巻き時計など、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人にあつたベット・物の配置等安全に過ごしていただけるよう環境整備を行っている。 また、トイレ・本人居室にネームプレートを張り、本人がすぐわかる様工夫している。		